

Urban Innovation TOYONAKA

スタートアップと行政職員が協働する、新たな地域課題解決プロジェクト

実証実験の結果概要について



地域課題解決支援事業の目的・概要

目的

民間事業者等と市が協働しながら、地域課題や行政課題の解決に当たること
で市民サービスの向上を図るとともに、イノベーションや新たなビジネスの創造
につなげる。

概要

各課が抱える課題と、技術やノウハウを持つ民間事業者等とのマッチングを行い
実証実験・実装につなげ、協働での課題解決をめざす。

実証実験を行う民間事業者等には、上限50万円の補助金を支給する。

公募

中間支援事業者・特定非営利活動法人コミュニティリンクが運営する
「アーバンイノベーション豊中」の枠組みで事業者公募

公募期間：令和6年（2024年）4月19日～5月19日

審査を経て、6月5日付けで2団体を採択

採択団体・課題一覧

担当課	採択団体	課題
こども支援課 交通政策課	hab株式会社	子どもの習い事の送迎サポート！育児と仕事の両立を応援したい！
デジタル戦略課	株式会社スピード	もっと、暮らしを便利に！誰もがデジタルを活用できる豊中市へ

こども支援課・交通政策課 × hab株式会社

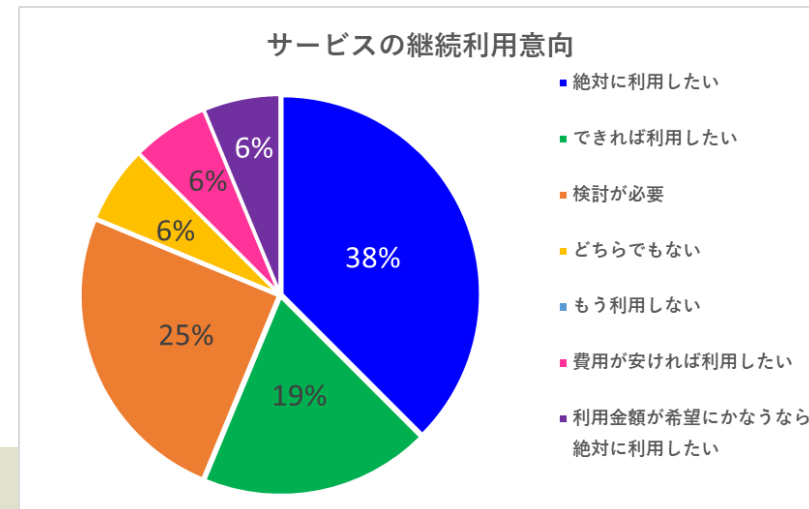


実証実験の内容

希望する時間や場所間で利用できる、こども専用の相乗りタクシーサービス『hab』を用いた送迎支援を保護者に体験してもらい、保護者が抱える時間的負荷の軽減に対する有効性を確認した。

実証実験の成果

- 子育て世帯は時間的余裕のなさを課題と感じており、中でも送迎はニーズが高かった。
- 送迎サービスについて、評価及び継続利用意向が高かった。
 - サービス満足度5段階中平均4.9
 - 継続利用意向56.3%、金額等によって検討37.5%
 - 時間的な負担感は全利用者が解消されたと回答



デジタル戦略課 × 株式会社スピード

実証実験の内容



デジタルデバインド※対策として実施しているスマホ相談の新たな担い手として、大学生有償ボランティアを派遣し、利用者への効果や運用の持続可能性等を確認した。

9月の小規模試行を経て、11月に学生有償ボランティアによるスマホ相談会を開催（5箇所・5回で実施）

※ デジタルデバインド…インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。（総務省）

実証実験の成果

- 学生応募数は希望する人数よりも少なかったが、人員を確保することができた。（14名・希望数20名）
- 学生の対応スキルについて、大きな問題はなかった。
→「次も学生に教えてもらいたい」「学生と職員どちらでもよい」と回答した割合は85%
- 学生ボランティアの持続可能性は高い見込み。（友人に勧めたいかの項目が10点満点中平均8.5）